

# 大宰府史跡発掘調査報告書 XII

令和2～4年度

2024

九州歴史資料館



## 序

本書は、令和2～4年度に実施した大宰府史跡の確認調査についての報告書です。

当館では、大宰府史跡に関して、開発に先立つ事前の確認調査を実施しています。令和2～4年度は、日吉地区や五反田地区、政庁前面広場地区などの大宰府政庁周辺官衙跡、また、観世音寺子院跡や筑前国分寺跡、大野城跡での調査を行いました。これらの調査を通して、遺跡の広がりや旧地形を復元する上で有益な情報を得ることができ、また開発側との協議も円滑に行うことができました。

今回報告を行った調査の成果が、今後の研究に寄与できれば、望外の喜びです。

最後に、発掘調査にあたりましては、大宰府史跡調査研究指導委員会をはじめ、文化庁、太宰府市教育委員会、宇美町、さらに地元の関係各位から多大な御指導と御協力を頂きました。記して、深く感謝致します。

令和6年3月31日

九州歴史資料館  
館長 城戸秀明

## 例 言

- 1 本書は、令和2～4年度に福岡県教育委員会が国庫補助を受け、九州歴史資料館が実施した、大宰府史跡発掘調査の年次報告書であり、大宰府史跡発掘調査報告書の第12集にあたる。
- 2 本書には、日吉/五反田地区の緊急調査として実施した第247次調査、日吉地区の緊急調査として実施した第248次調査、史跡観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡の緊急調査として実施した第249次調査、五反田地区の緊急調査として実施した第251次調査、政庁前面広場地区の緊急調査として実施した第252次調査、また、緊急調査として実施した筑前国分寺跡第30次調査と大野城跡第58次調査を掲載している。
- 3 発掘調査は、大宰府史跡調査研究指導委員会の指導のもとに実施した。
- 4 本書掲載の遺構写真は、吉田東明・宮地聡一郎が、遺物は西宏明が撮影したものである。
- 5 出土遺物の実測は吉田・林友子が行った。
- 6 本図掲載の浄書は、荒木睦子、吉田香智子が行った。
- 7 本書の執筆分担は以下のとおりである。
  - I 宮地
  - II 1～4 吉田  
5 宮地
  - III 宮地
  - IV 宮地
- 8 本書の編集は、宮地が行った。

## 本文目次

	頁
<b>I 緒 言</b>	
1 調査と組織	1
2 調査の経過と概要	5
<b>II 大宰府史跡の確認調査</b>	
1 第247次調査（日吉／五反田地区の確認調査）	9
2 第248次調査（日吉地区の確認調査）	12
3 第249次調査（観世音寺子院跡の確認調査）	14
4 第251次調査（五反田地区の確認調査）	17
5 第252次調査（政庁前面広場地区の確認調査）	21
<b>III 筑前国分寺跡の確認調査</b>	
1 筑前国分寺跡第30次調査（西面回廊の確認調査）	25
<b>IV 大野城跡の確認調査</b>	
1 大野城跡第58次調査（四王寺県民の森内の確認調査）	29

## Fig. 目次

	頁
Fig. 1 大宰府史跡発掘調査地周辺図 (1/25,000) .....	7
Fig. 2 大宰府史跡発掘調査地域図 (1/5,000) .....	折込
Fig. 3 第247・248次調査地位位置図 (1/1,000) .....	10
Fig. 4 第247次調査地位位置図 (1/500) .....	11
Fig. 5 第247次調査土層略測図 (1/40) .....	11
Fig. 6 第248次調査地位位置図 (1/500) .....	12
Fig. 7 第248次調査土層略測図 (1/40) .....	13
Fig. 8 第249次調査地位位置図① (1/1,000) .....	15
Fig. 9 第249次調査地位位置図② (1/500) .....	16
Fig.10 第249次調査トレンチ略測図 (1/60) .....	16
Fig.11 第251次調査地位位置図① (1/1,000) .....	18
Fig.12 第251次調査地位位置図② (1/500) .....	19
Fig.13 第251次調査土層略測図 (1/40) .....	19
Fig.14 第251次調査出土遺物実測図 (1/3) .....	20
Fig.15 第252次調査地位位置図① (1/1,000) .....	22
Fig.16 第252次調査地位位置図② (1/500) .....	23
Fig.17 第252次調査土層略測図 (1/40) .....	23
Fig.18 第30次調査地位位置図① (1/1,000) .....	26
Fig.19 第30次調査地位位置図② (1/500) .....	27
Fig.20 第30次調査トレンチ略測図 (1/60) .....	27
Fig.21 第30次調査出土遺物実測図 (1/3) .....	28
Fig.22 第58次調査地位位置図① (1/2,000) .....	30
Fig.23 第58次調査地位位置図② (1/500) .....	31
Fig.24 第58次調査土層略測図 (1/40) .....	31

## Tab. 目次

	頁
Tab. 1 大宰府史跡調査研究指導委員会委員一覧 (令和2年度) .....	4
Tab. 2 大宰府史跡調査研究指導委員会委員一覧 (令和3・4年度) .....	4
Tab. 3 大宰府史跡現状変更申請対応状況表 .....	8
Tab. 4 大宰府史跡発掘調査実施表 .....	8
Tab. 5 報告書掲載遺物一覧 .....	32

## PL. 目次

- PL. 1 (1) 第 247 次調査地全景 (南東から)  
(2) 第 247 次調査 1 トレンチ (東から)  
(3) 第 247 次調査 2 トレンチ (西から)
- PL. 2 (1) 第 248 次調査地全景 (南西から)  
(2) 第 248 次調査 1 トレンチ (南東から)  
(3) 第 248 次調査 2 トレンチ (北から)
- PL. 3 (1) 第 249 次調査状況 (東から)  
(2) 第 249 次調査 トレンチ (西から)  
(3) 第 249 次調査 トレンチ (南西から)
- PL. 4 (1) 第 251 次調査地全景 (南から)  
(2) 第 251 次調査 トレンチ (西から)  
(3) 第 251 次調査 トレンチ (南から)
- PL. 5 (1) 第 252 次調査状況 (南東から)  
(2) 第 252 次調査 1 トレンチ (南西から)  
(3) 第 252 次調査 2 トレンチ (南西から)
- PL. 6 (1) 筑前国分寺跡第 30 次調査地全景 (南から)  
(2) 筑前国分寺跡第 30 次調査 トレンチ (南東から)  
(3) 筑前国分寺跡第 30 次調査 トレンチ南壁 (北東から)
- PL. 7 (1) 大野城跡第 58 次調査 トレンチ (北西から)  
(2) 大野城跡第 58 次調査 トレンチ北東壁 (南西から)  
(3) 大野城跡第 58 次調査終了状況 (北西から)
- PL. 8 (1) 第 251 次調査出土遺物  
(2) 筑前国分寺跡第 30 次調査出土遺物

## 凡 例

- 1 本書掲載図面中、土器の断面を黒塗りにしたものは須恵器を示す。
- 2 土器・陶磁器類、瓦等の報告においては、以下の文献の型式分類・名称等に準じている。  
土器：太宰市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡Ⅴ』  
瓦：九州歴史資料館 2002 『大宰府政庁跡』



# I 緒 言

## 1 調査と組織

### (1) 年次調査

大宰府史跡は、国指定特別史跡である「大宰府跡」及び政庁周辺の官衙跡、「水城跡」、「大野城跡」及び国指定史跡の「大宰府学校院跡」、「観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡」、「筑前国分寺跡」、「国分瓦窯跡」等の古代の官衙・山城・寺院・生産遺跡を包括する我が国有数の大規模史跡である。

これら史跡の調査研究、報告書刊行及び整備活用を進めるにあたっては、様々な視点から対処する必要があり、歴史学・考古学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学の専門家で構成される諮問機関である「大宰府史跡調査研究指導委員会」に諮り、委員による指導助言のもとに計画調査を実施している。この計画調査は、昭和47年に九州歴史資料館が発掘調査の実施主体となつてから、5ヶ年を区切りとする計画を立案し、検討・承認を経て、調査が遂行される形となつており、現在まで10次を数えるに至っている。

また、発掘調査は上記の計画調査のほかに、緊急調査としての確認調査も行っている。これは、史跡指定地において、現状変更に係る工事等に先立ち、遺構への影響等を確認するために実施するほか、大宰府政庁周辺官衙跡等の史跡指定地外の箇所においても実施しており、その成果は、住居建設等の際に遺構に影響の及ばない工法の検討に生かされている。

各年次の実施状況は以下のとおりである。

#### 令和2年度

大宰府史跡第10次5ヶ年計画の4ヶ年目にあたり、引き続き蔵司地区官衙跡の重点調査を実施した。

また、大宰府政庁周辺官衙跡の日吉・五反田地区の境界で1件、日吉地区で1件、観世音寺子院跡で1件、住居建て替えの計画があつたことを受け、緊急調査として確認調査を行った。

大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和2年10月14・15日に開催した。1日目は、令和元年度及び2年度の大宰府史跡関係の調査報告を行い、大宰府史跡第245・246次調査地（蔵司地区）の確認調査の現地視察を行った。2日目は、蔵司地区官衙跡の調査成果及び今後の大宰府史跡について報告・協議を行い、今後の調査や報告書作成等について指導、助言を受けた。

そのほか、九州歴史資料館では、大宰府の周囲を取り囲む施設の有無やその実態について、平成29年より大宰府外郭線の調査研究として取り組んでいたが、令和2年度は、大宰府外郭線第2次補足調査及び第3次調査を行った。大宰府外郭線は複数市町にまたがることから、関係市町との連携による大宰府外郭線検討会を3回開催し、また大宰府史跡調査研究指導委員会大宰府外郭線部会を令和2年9月17日と令和3年3月10日の2回開催した。第1回部会では令和元年度及び2年度の調査報告を行い、第2回部会では令和2年度の調査について報告・協議を行い、今後の調査について指導・助言を得た。

報告書については、平成11年度までの成果は概報という形でまとめてきたが、平成12年度の発掘調査成果からは報告書の形でまとめており、令和2年度は『大宰府史跡発掘調査報告

書XI 平成30・令和元年度』を刊行した。

なお、令和2年度の発掘調査計画は、次のとおりである。

#### 令和3年度

大宰府史跡第10次5ヶ年計画の5ヶ年目にあたり、当年度まで引き続き蔵司地区官衙跡の重点調査を実施した。

また、大宰府政庁周辺官衙跡の五反田地区では、住宅建設の計画があがったことを受け、緊急調査として確認調査を行った。

大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和3年10月27・28日に開催した。1日目は、令和2年度及び3年度の大宰府史跡関係の調査報告を行い、大宰府史跡第246・250次調査地（蔵司地区）の確認調査の現地視察を行った。2日目は蔵司地区官衙跡の調査成果及び今後の大宰府史跡について報告・協議を行い、今後の調査や報告書作成等について指導、助言を受けた。

大宰府外郭線の調査については、大宰府外郭線第1次補足調査及び第3次補足調査、第4次調査を行った。関係市町との連携による大宰府外郭線検討会は3回開催し、大宰府史跡調査研究指導委員会大宰府外郭線部会を令和3年11月22日と令和4年3月14日の2回開催した。第1回部会では現地視察を行い、第2回部会では令和3年度の調査及びこれまでの調査成果について報告・協議を行い、今後の報告書作成について指導・助言を得た。

なお、令和3年度の発掘調査計画は、次のとおりである。

#### 令和4年度

令和3年度まで行ってきた蔵司地区官衙跡の調査についての整理・報告書作成、また大宰府外郭線についての補足調査も実施した。

そのほか、大野城跡で1件、政庁前面広場地区で1件、筑前国分寺跡で1件、開発等に伴う埋蔵文化財の有無の確認が必要な事案が発生した。いずれも大宰府史跡の解明を行う上で重要な地区であることから、緊急調査として確認調査を行った。

大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和4年7月27日と10月19日の2回開催した。第1回委員会はオンラインを併用し、大宰府外郭線の発掘調査の成果について報告したほか、今後の大宰府史跡の在り方についての協議を行った。第2回委員会は、今後の大宰府史跡の在り方及び蔵司地区の調査成果についての報告・協議を行い、今後の報告書作成について指導・助言を受けた。

大宰府外郭線の調査については、大宰府外郭線第3次補足調査を行った。大宰府外郭線検討会は1回開催し、大宰府史跡調査研究指導委員会大宰府外郭線部会は8月17日と12月15日の2回開催した。第1回部会は、現地視察を行ったほか、オンラインを併用し、成果の総括に向けた協議を行い、第2回部会では、大宰府外郭線の境界線について、考古資料や文献史料から検討した成果を報告し、報告書作成について指導・助言を受けた。

報告書については、『大宰府外郭線1』を刊行した。また、今後の大宰府史跡への取り組み方を示す『大宰府史跡の調査研究・整備の在り方』及び『大宰府史跡の調査研究・整備のこれから』を作成した。

## (2) 調査組織

発掘調査及び報告書作成は、令和3年度までは九州歴史資料館文化財調査室調査研究班、令和4年度以降は組織改編があり、埋蔵文化財調査室大宰府調査班が担当した。本報告書作成に係る関係者は、以下のとおりである。

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
<b>九州歴史資料館</b>					
<b>統括</b>	館長	吉田 法稔	城戸 秀明	城戸 秀明	城戸 秀明
	副館長	安永 千里	安永 千里	吉村 靖徳	吉村 靖徳
<b>庶務</b>	総務室長	伊藤 幸子	伊藤 幸子	黒岩 計光	黒岩 計光
	総務班長	畑山 智	高山美保子	高山美保子	岡本 裕子
	事務主査				徳永 裕美
	主任主事	古賀 知香	古賀 知香	古賀 知香 小原 大輔	古賀 知香
	主事	田中 佑弥 具志堅靖知	小原 大輔 田中 佑弥 具志堅靖知	原口 美紀	原口 美紀
<b>報告</b>	文化財調査室長	吉村 靖徳	吉村 靖徳	吉村 靖徳	
	埋蔵文化財調査室長 (副館長兼務)			吉村 靖徳	吉田 東明
<b>学芸調査室長</b>	学芸調査室長	小田 和利	松川 博一	松川 博一	松川 博一
	文化財調査室長補佐	伊崎 俊秋			
	調査研究班長	吉田 東明	吉田 東明		
	大宰府調査班長			吉田 東明	宮地聡一郎
	参事補佐			進村 真之 宮地聡一郎	
	企画主査	進村 真之	進村 真之		
<b>主任技師</b>	技術主査	岡寺 良			坂元 雄紀 小嶋 篤
	保存処理		小嶋 篤	小嶋 篤	
	保存管理班長	加藤 和歳	加藤 和歳		
	文化財科学班長			加藤 和歳	加藤 和歳
<b>整理</b>	技術主査	小林 啓	小林 啓	小林 啓	小林 啓
	文化財調査班参事補佐	小川 泰樹	小川 泰樹	小川 泰樹	

なお、大宰府史跡調査研究指導委員会の委員は Tab.3・4 のとおりである。

Tab.1 大宰府史跡調査研究指導委員会委員一覧（令和2年度）

役 職	氏 名	職 名	専 門
委員長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
委 員	森 公章	東洋大学教授	歴史学
	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	増淵 徹	京都橘大学教授	歴史学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	松村 恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	亀田 修一	岡山理科大学教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	伊東 龍一	熊本大学大学院教授	建築史学
	杉本 正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	造園学
	渡辺 定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学

Tab.2 大宰府史跡調査研究指導委員会委員一覧（令和3・4年度）

役 職	氏 名	職 名	専 門
委員長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
副委員長	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委 員	森 公章	東洋大学教授	歴史学
	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	増淵 徹	京都橘大学教授	歴史学
	亀田 修一	岡山理科大学教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	伊東 龍一	熊本大学大学院教授	建築史学
	本中 眞	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	造園学
	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学

## 2 調査の経過と概要

### (1) 令和2年度

令和2年度の計画調査は、引き続き蔵司地区官衝跡及び大宰府外郭線を調査対象とし、大宰府史跡第245次、第246次調査、第250次調査、大宰府外郭線第2次補足調査及び第3次調査を実施した。また確認調査は日吉/五反田地区の第247次調査や、日吉地区の第248次調査、観世音寺境内及び子院跡の第249次調査を実施した。蔵司地区官衝跡の調査については、令和5年度刊行の『大宰府政庁周辺官衝跡Ⅻ』、大宰府外郭線の調査については令和4年度刊行の『大宰府外郭線Ⅰ』に譲り、ここでは確認調査について報告する。

大宰府史跡第247次調査は、住居建て替えに伴う確認調査で、令和2年4月21日に実施した。調査地は政庁周辺官衝跡の日吉地区と五反田地区の境界にあたり、トレンチを2箇所設定した。調査の結果、旧表土や河川の氾濫に由来する砂層を確認したが、遺構及び遺物は確認できなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。

大宰府史跡第248次調査は、住居建て替えに伴う確認調査で、令和2年5月25日に実施した。調査地は政庁周辺官衝跡の日吉地区にあたり、トレンチを2箇所設定した。調査の結果、河川の氾濫に由来する黒灰色粘土層を確認したが、遺構及び遺物は確認できなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。

大宰府史跡第249次調査は、住居建て替えに伴う確認調査で、令和2年8月21日に実施した。調査地は史跡「観世音寺境内及び子院跡の政庁周辺官衝跡附老司瓦窯跡」のうち、観世音寺北東の東観世団地に位置し、地形に沿って東西方向にトレンチを1箇所設定した。調査の結果、東から西に急傾斜で下降する旧地形を確認したが、遺構及び遺物は確認できなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。

### (2) 令和3年度

令和3年度の計画調査は、引き続き蔵司地区官衝跡及び大宰府外郭線を調査対象とし、大宰府史跡第245次調査、第246次調査、第250次調査、大宰府外郭線第2次補足調査及び第3次調査を実施した。また確認調査は五反田地区の第251次調査を実施した。蔵司地区官衝跡の調査については、令和5年度刊行の『大宰府政庁周辺官衝跡Ⅻ』、大宰府外郭線の調査については令和4年度刊行の『大宰府外郭線Ⅰ』に譲り、ここでは確認調査について報告する。

大宰府史跡第251次調査は、住居建て替えに伴う確認調査で、令和3年9月24日に実施した。調査地は政庁周辺官衝跡の五反田地区あたり、トレンチを1箇所設定した。調査の結果、旧表土や河川の氾濫に由来する混礫粗砂層等を確認したが、遺構及び遺物は確認できなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。

### (3) 令和4年度

令和4年度は、令和3年度まで大宰府史跡発掘調査第10次5ヶ年計画に基づき行ってきた蔵司地区の調査の整理作業を行った。

確認調査は大野城跡で第58次調査の1件、政庁前面広場地区で第252次の1件、筑前国分寺跡で第30次調査の1件である。

大野城跡第58次調査は、ワンヘルスの森ミュージアムのエレベーター設置に伴う確認調査で、令和4年9月27日に実施した。調査はトレンチを1箇所設定して行ったが、遺構及び遺物は確認できなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。

大宰府史跡第252次調査は、埋蔵文化財の有無に関する照会がなされたことを受け行った確認調査で、令和5年2月8日に実施した。調査地は政庁周辺官衙跡の政庁前面広場地区で、トレンチを2箇所設定した。調査の結果、河川の氾濫に由来する灰色粗砂層や氾濫原を埋めた新しい盛土を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。

筑前国分寺跡第30次調査は、境内整備に伴い、当該地の遺構の状況及び地下遺構への影響を把握することを目的とした確認調査で、令和5年2月21・22日に実施した。調査地は西面回廊推定地でトレンチを1箇所設定した。調査の結果、遺物は瓦片が出土したものの、遺構は後世の削平や攪乱によって、残存していないことが明らかとなった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。







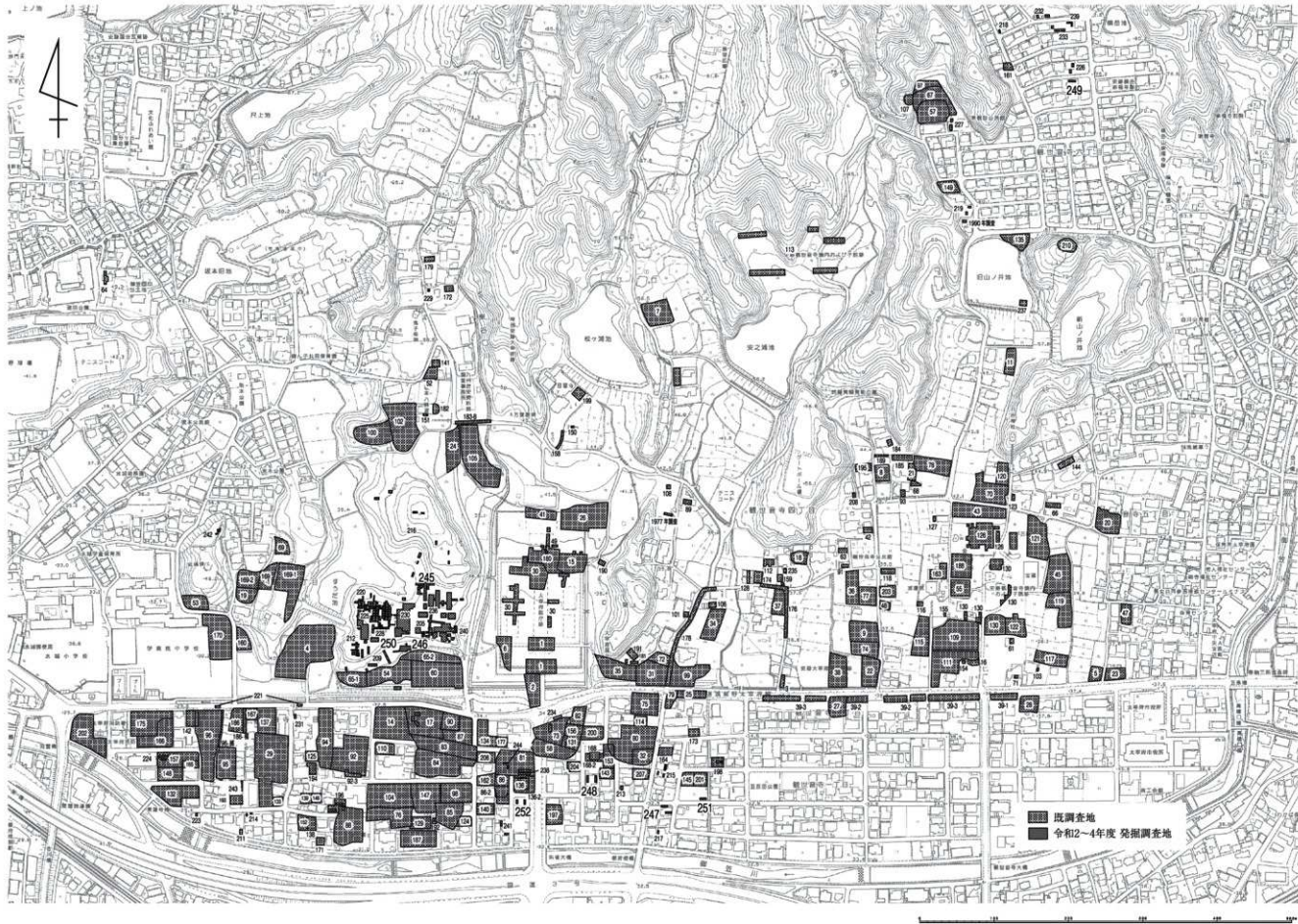


Fig.2 大宰府史跡発掘調査地域図(1/5,000)

## 1 第 247 次調査（日吉 / 五反田地区の確認調査）

### （1）調査概況

**経 過** 大宰府政庁跡の周辺には、これまでの発掘調査によって広範囲に建物群などが展開し、大宰府の様々な機能を担う諸官衙が存在していたことが知られている。

今回の対象地は大宰府政庁跡の南東側に位置する、日吉地区と呼称する場所の一部である。日吉地区の北側には県道を挟んで月山地区、西側には前面広場地区、東側には五反田地区、南側は御笠川に接する位置にある。

これまでの発掘調査によって、日吉地区の北側には古代の官衙を構成したと思われる複数の大規模掘立柱建物群が確認されている。一方で、南半部は御笠川の氾濫によって失われていることが判明している。対象地はその氾濫原の範囲に相当することが予想されたが、遺構の有無や地下の状況を確認する必要があるため、確認調査を実施することとした。

確認調査は、住宅建て替えの申請が提出されたことを受けて、太宰府市教育委員会職員会の立会のもと、九州歴史資料館を調査主体として令和 2 年 4 月 21 日に実施した。重機を使用して第 1・2 トレンチの掘削を行い、写真撮影や図面作成の後で埋め戻した後、作業を完了した。調査面積は第 1 トレンチが 3.5㎡、第 2 トレンチが 3.3㎡で、合計 6.8㎡である。

**位 置** 調査地は政庁南門から南東約 200m に位置し、付近には 145・215・217 次調査区がある。地番は太宰府市観世音寺 1 丁目 333 番である。

### （2）トレンチ設定と基本層序（Fig.3～5, PL.1）

現況では調査地周辺は平坦な宅地であるが、旧地形図を確認すると南側を東西方向に流れる御笠川に向かって全体的に緩やかに傾斜している。また、過去の調査所見によって今回の対象地は御笠川の氾濫原である可能性も予想された。確認調査のためのトレンチを設定するにあたっては、調査対象地の全容を把握するため、対象地の北西端に第 1 トレンチ、南東端に第 2 トレンチをそれぞれ設定することとした。

#### 第 1 トレンチ

調査区北西端部に設定したトレンチである。掘削に際しては重機を使用し、現在の敷地の形状に沿って東西方向にトレンチ主軸を設定して掘削を行った。

掘削は地表面下 260cm の深さまで行ったが、地表面からトレンチ底面に至るまで、分厚い客土が堆積する状況を確認した。したがってこの範囲は、旧地形がかなり傾斜していた場所に大規模な盛土を行い、現在のような平坦面地形を造成していることが分かった。なお、遺構や遺物は確認されなかった。

#### 第 2 トレンチ

調査区南東端部に設定したトレンチである。掘削に際しては重機を使用し、現在の敷地の形状に沿って東西方向にトレンチ主軸を設定して掘削を行った。

掘削は深さ 220cm まで行った。その結果、上層には 120cm の厚さで盛土が確認され、その下層には青灰色土からなる旧表土を確認することができた。旧表土は厚さ 20cm を測り、その下層には褐色土からなる旧水田床土を確認した。床土下には礫を含んだ明褐色粗砂層が 50cm

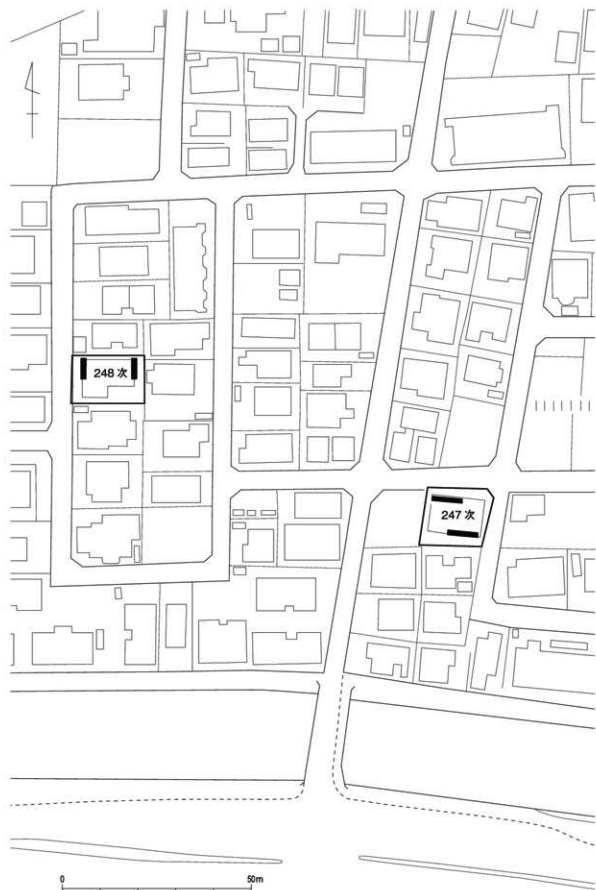


Fig.3 第247・248次調査地位位置図 (1/1,000)



Fig.4 第 247 次調査地位位置図 (1/500)

の厚さで確認された。これは御笠川の氾濫に起因する洪水砂層と理解するに至った。なお、遺構や遺物は確認することができなかった。

調査の結果、第 2 トレンチでは旧地形の状況を確認することができたが、この場所は当初想定された通り御笠川の氾濫原に相当し、遺跡は遺存していないことが分かった。

### (3) 小結

今回の調査では、第 1 トレンチで分厚い客土層、第 2 トレンチでは客土下層から旧表土層や床土層を確認したが、その下層には河川の氾濫による洪水砂層の堆積が確認された。従って、当該箇所は御笠川の氾濫等によって大きく削平を受けた場所であり、この範囲には遺跡が広がっていないことを確認する結果となった。

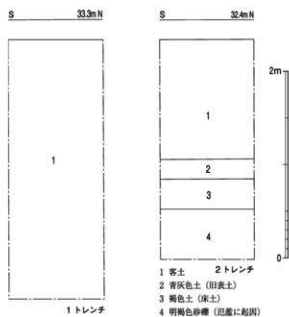


Fig.5 第 247 次調査土層略測図 (1/40)

## 2 第248次調査（日吉地区の確認調査）

### （1）調査概況

**経 過** 今回の対象地は大宰府政庁跡の南東側に位置する、日吉地区と称する場所の一部である。日吉地区の北側には県道を挟んで月山地区、西側には前面広場地区、東側には五反田地区、南側は御笠川に接する位置にある。

これまでの発掘調査によって、日吉地区の北側には古代の官衙を構成したと思われる複数の大規模掘立柱建物群が確認されている。一方で、南半部は御笠川の氾濫によって失われていることが判明している。対象地は大規模掘立柱建物等が確認されている範囲と氾濫原との境界付近に相当し、地下に遺構が存在する可能性も十分に予想されたため、遺構の有無や地下の状況を確認する目的で確認調査を実施することとした。

確認調査は、住宅建て替えの申請が提出されたことを受けて、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、九州歴史資料館を調査主体として令和2年5月25日に実施した。重機を使用して第1・2トレンチの掘削を行い、写真撮影や図面作成の後で埋め戻した後、作業を完了した。調査面積は第1トレンチが3.0㎡、第2トレンチが3.0㎡で、合計6.0㎡である。

**位 置** 調査地は政庁南門から南東約180mに位置し、付近には145・215・217次調査区がある。また、令和2年4月21日に確認調査を実施し、御笠川の氾濫原であることを確認した第247次調査区にも近い。地番は太宰府市観世音寺1丁目378・379番である。

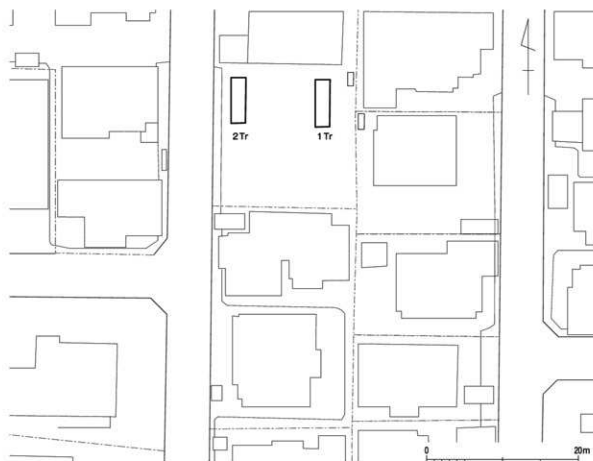


Fig.6 第248次調査地位置図（1/500）

## (2) トレンチ設定と基本層序 (Fig.6・7, PL.2)

現況では調査地周辺は平坦な宅地であるが、旧地形図を確認すると南側を東西方向に流れる御笠川に向かって全体的に緩やかに傾斜している。また、過去の調査所見によって今回の対象地は御笠川の氾濫原である可能性も予想された。当該地は宅地造成によって東側が一段高く、西側が低くなっているため、東西それぞれに確認調査のトレンチを設定することとした。

## 第1トレンチ

調査区北東側に設定したトレンチである、掘削に際しては重機を使用し、現在の敷地の形状に沿って南北方向にトレンチ主軸を設定して掘削を行った。

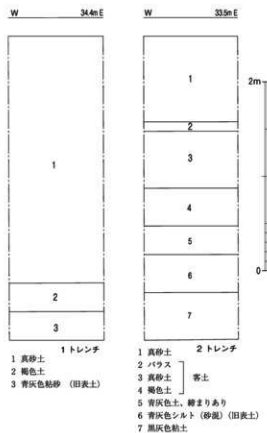
掘削は地表面からの深さ320cmまで行った。その結果、上層から260cmの深さまで真砂土による盛土が行われ、その下層では褐色土からなる盛土が30cmの厚さで確認した。さらにその下層には、青灰色粘砂を30cmの厚さで確認した。青灰色粘砂には竹の根等が混じっており、区画整理以前の旧表土であることを確認した。なお、調査の結果、第1トレンチでは遺構・遺物ともに確認できなかった。

## 第2トレンチ

調査区北西側に一段低い箇所を設定したトレンチである。掘削に際しては重機を使用し、現在の敷地の形状に沿って南北方向にトレンチ主軸を設定して掘削を行った。

掘削は地表面からの深さ270cmまで行った。その結果、上層から90cmの深さまでは真砂土による盛土があり、その下層では10cm程の厚さでバラス敷層が確認された。従って、現地表を構成する真砂土層は区画整理事業時よりもさらに後の時期に盛土造成を行ったものであることが分かった。

バラス敷層の下層には60cmの厚さで真砂土層があり、その下層では40cmの厚さで褐色土層が確認された。これらは区画整理事業時の客土層である。その下層には締まりのある青灰色土が30cmの厚さで確認された。さらにその下層の第6層青灰色シルトは草木類の根等を含んでおり第5層とともに旧表土を構成した層と推測された。第7層黒灰色粘土は比較的締まりのある安定した層である。なお調査の結果、第2トレンチでは遺構・遺物ともに確認できなかった。



## (3) 小結

今回の調査では、第1トレンチ・第2トレンチともに上層付近は分厚い客土層であることを確認した。その下層では旧表土層を確認したが、旧地形はかなり低くなっており、この範囲には遺跡が広がっていないことを確認する結果となった。

Fig.7 第248次調査土層略測図 (1/40)

### 3 第249次調査（観世音寺子院跡の確認調査）

#### (1) 調査概況

**経 過** 国指定史跡「観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡」の指定地内のうち、観世音寺の北側に広がる子院跡については、これまで発掘調査事例が少なく不明な点が多い。特に東観世団地は史跡指定による大宰府史跡の保護が着手される以前から団地造成が進められていたため、遺跡の範囲や内容に関する情報が乏しい。そのため当該地については、開発事業に先立ち、旧地形との照合や確認調査を重ねて、遺跡の範囲内容や地形の把握に努めている。

第249次調査は、太宰府市教育委員会に対して既存家屋建て替え及び擁壁設置計画が相談されたことを受け、既存家屋解体後にトレンチ掘削による確認調査を実施することとなった。調査は太宰府市教育委員会職員の方のもと、九州歴史資料館が調査主体として実施した。調査日は令和2年8月21日である。

当該地は既に家屋の撤去を完了していたため更地の状態であり、掘削深度も相応の深さが予想されたため、重機を用いてトレンチ掘削を行った。掘削・遺構確認作業後、写真撮影と図化作業を行ったのち速やかに埋戻しを行い、同日中に調査を完了した。調査面積は4.3㎡である。  
**位 置** 調査地は国指定史跡「観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡」の北東、東観世団地と呼ばれる宅地の北側に位置する。北側には232・233・239次調査区があり、東側50mの位置には横岳崇福寺跡がある。調査対象地の地番は、太宰府市観世音寺6丁目715番87、896番49である。

#### (2) トレンチ設定と基本層序 (Fig.8～10, PL.3)

調査対象地は東西方向にやや長い形状であり、全体の状況を把握するため、東西方向にトレンチを設定した。トレンチの規模は、幅0.7m、長さ6.3mである。東端部では表層に真砂土からなる客土が見られ、50cmの深さで花崗岩風化礫層からなる基盤層を確認した。東端部よりやや西側では表層の真砂土が1mを超え、その下層には西側に向かって大きく傾斜する地形を確認した。この傾斜地形は、東側では花崗岩風化礫層、それよりも西側では第3層締まりのない黄褐色土層や第4層締まりのない黒褐色土層を確認することができた。これまでの調査所見から、第3層黄褐色土層は付近の地山層、第4層は旧表土層であることが分かっている。

トレンチ中央付近ではコンクリート基礎が根深く遺存していたため除去できなかったが、トレンチ西側では2mを超える深さまで掘削を行った。しかしこの部分では基盤層等にまでは到達できず、真砂土の客土が2mを超える厚さに及んでいることを確認することとなった。

なお、調査の結果、遺構や遺物は確認できなかった。

#### (3) 小結

今回の調査では、主軸を東西方向に向けてトレンチ掘削を行ったが、その結果、旧地形は東から西へと大きく傾斜する地形であり、さらに東側は造成時に大きく掘削されているため、旧表土層や地山層は現時点では既に遺存していないことが分かった。

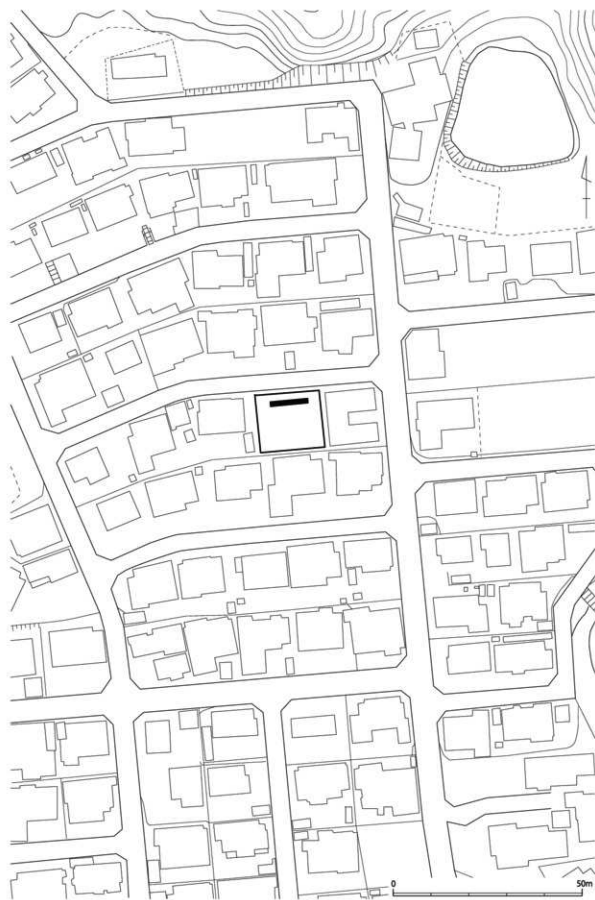


Fig.8 第 249 次調査地位図① (1/1,000)



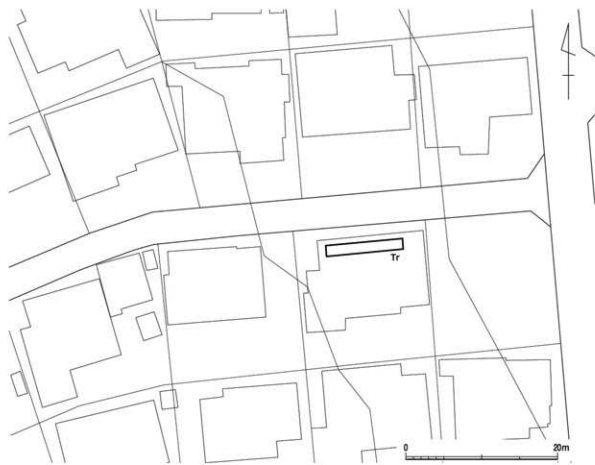


Fig.9 第249次調査地位置図② (1/500)

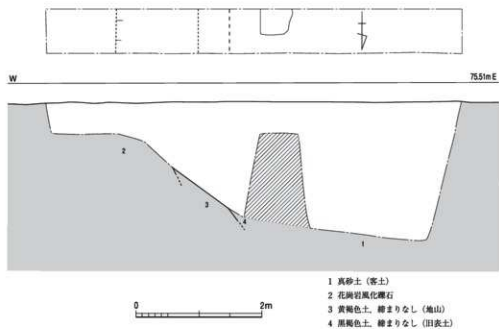


Fig.10 第249次調査トレンチ略測図 (1/60)

## 4 第251次調査（五反田地区の確認調査）

### （1）調査概況

**経過** 今回の対象地は大宰府政庁跡の南東側に位置する、五反田地区と呼称する場所の一部である。五反田地区の北側には県道を挟んで学業地区、西側には日吉地区、南側は御笠川に接する位置にある。

これまでの発掘調査によって、五反田地区では古代官衙に関連する遺構はほぼ確認されておらず、旧地形も御笠川等の氾濫によって失われていることが分かっている。対象地についても周辺部の調査所見も含めると遺構は存在しない可能性が高いことが予想されたが、遺構の有無や地下の状況を正確に確認する必要があるため、確認調査を実施することとした。

確認調査は、住宅建て替えの申請が提出されたことを受けて、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、九州歴史資料館を調査主体として令和3年9月24日に実施した。重機を使用してトレンチの掘削を行い、写真撮影や図面作成の後で埋め戻した後、作業を完了した。調査面積は3.2㎡である。

**位置** 調査地は政庁南門から南東約330mに位置し、付近には145・198・201次調査区がある。地番は太宰府市観世音寺1丁目308番2である。

### （2）トレンチ設定と基本層序（Fig.11～13, PL.4）

現状では調査地周辺は平坦な宅地であるが、旧地形図を確認すると日吉地区よりも五反田地区の方が若干低い地形であることが分かる。また、南側を東西方向に流れる御笠川に向かって全体的に緩やかに傾斜している。確認調査は調査対象地の南東端から現況の地形に沿って西方向へと掘削を進めることとした。掘削に際しては重機を使用した。

掘削は地表面下210cmの深さまで行った。地表から150cmの深さまでは、真砂土による客土層が見られ、その下層には第4層旧表土層を確認した。第5層は旧表土層に伴う床土があり、その下層には第6層粗砂層の堆積が確認された。この第6層は約30cmの厚さがあり、層中から古代の遺物が出土した。第7層は小礫を含んだ粗砂層である。

遺構は確認されなかったが、遺物は第6層から須恵器・土師器・瓦が20点程度出土した。

### （3）出土遺物（Fig.14, PL.8）

土師器小皿（1・2） 1・2は底部系切を行う土師器小皿である。1は底形5.6cm、色調は薄茶灰色で焼成はやや軟質である。2は底形5.8cm、色は薄茶灰色である。どちらもローリングを受けている。

土師器皿（3） 復元口径15.2cmを測る小片である。胎土は精良で色調は薄茶灰色を呈す。焼成は良。

須恵器鉢（4） 口縁部付近の小片である。口縁端部は外側へと丸く肥厚し玉縁状となる。色調は灰色だが口縁外端部のみ黒灰色を呈す。

丸瓦（5・6） 5は須恵質に近い堅緻な焼成の丸瓦である。凸面は二重斜格子タタキ、凹

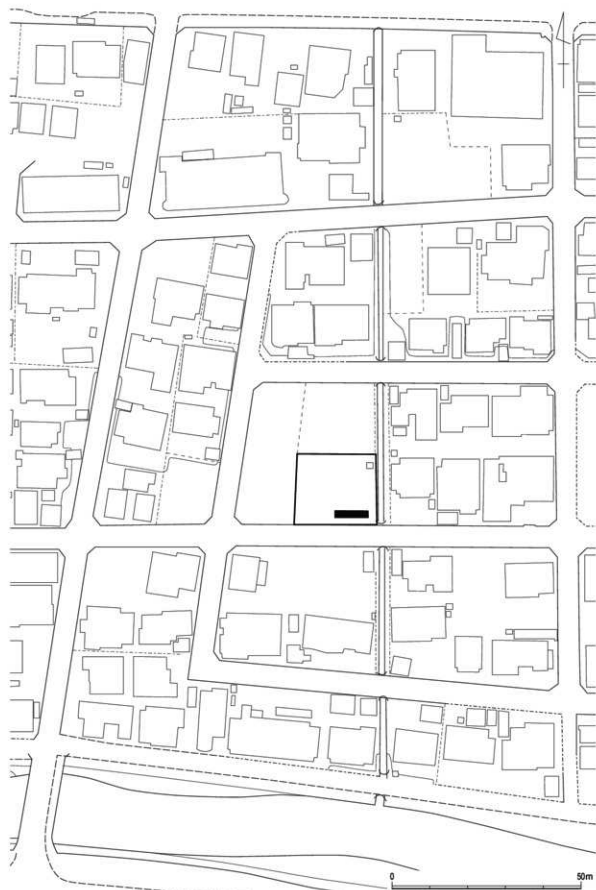


Fig.11 第251次調査地位図① (1/1,000)



Fig.12 第251次調査地位位置図② (1/500)

面には粗い布目圧痕が見える。ローリングを受けており角が丸味を帯びる。6は薄茶灰色でやや軟質の焼成である。端部には切り離し時のヘラ切り面が明瞭に観察できる。凸面は縄目タタキ、凹面は布目圧痕が見られ、一部ハケ目も確認できる。

平瓦(7) 薄黄灰色を呈しやや軟質焼成の平瓦である。凸面には縄目タタキ、凹面には布目圧痕が認められる。

#### (4) 小結

今回の調査では、地表下約180cmに第6層粗砂層が堆積し、この層は古代の遺物包含層であることを確認することができた。なお、第6層やその下層にある第7層は洪水に伴うとみられる粗砂であり、遺物は二次的な堆積によるものであることが明らかになった。出土遺物は中世前期を中心とする時期の所産である。

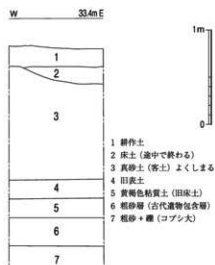


Fig.13 第251次調査土層略測図 (1/40)

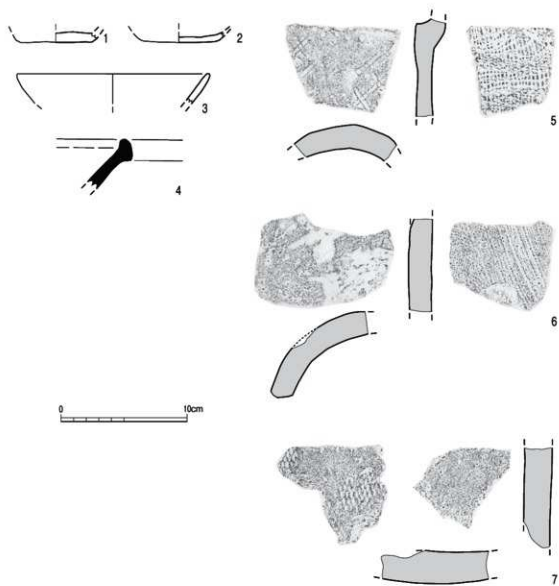


Fig.14 第251次調査出土遺物実測図 (1/3)

## 5 第 252 次調査（政庁前面広場地区の確認調査）

### （1）調査概況

**経 過** 大宰府政庁周辺官衙跡の政庁前面広場地区は、これまでの調査で、大きな空地が広がり、大規模な整地の跡や、「朝集殿」とも目される四面庇の大型獨立柱建物が確認されている。

今回の確認調査は、前面広場地区の中央やや西寄りの箇所で、埋蔵文化財の有無に関する照会がなされたことを受けて、遺構の有無及び深度を確認するために実施した。調査は、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、令和 5 年 2 月 8 日に実施した。掘削は重機により行い、写真撮影や図面作成の後、直ちに埋戻し、調査を完了した。調査面積は 6.5m<sup>2</sup>である。

**位 置** 調査地は、推定朱雀門の北約 60 m に位置し、第 136 次調査区の南にあたる。地番は太宰府市観世音寺 2 丁目 15 番である。

### （2）トレンチ設定と基本層序（Fig.15 ～ 17, PL.5）

現在、調査地周辺は平坦であるが、区画整理以前の地形図では、御笠川的作用によると思われる段差が表現されており、氾濫原であった時期が存在したことが予想された。トレンチは南北方向に第 1 トレンチ（1.0m × 3.4m）、第 2 トレンチ（1.0m × 3.4m）を設定した。

調査の結果、第 1 トレンチでは、地表面から 200cm まで旧表土や盛土が存在し、その下で灰色粗砂の河川堆積層を確認した。また第 2 トレンチでは、地表面から 130cm まで旧表土や盛土が存在し、その下に黄褐色土に花崗岩ブロックが混じる盛土と思われる土が厚く堆積しているのを確認した。

両トレンチとも、遺構・遺物、また古代の整地の痕跡は確認できなかった。

### （3）小 結

調査の結果、当該地は、御笠川の影響を受けた場所にあたり、後世に盛土を行ったことが明らかとなった。御笠川の流路は時代によって変化したと思われ、かつては大きく蛇行し、当該地を浸食したものとと思われる。

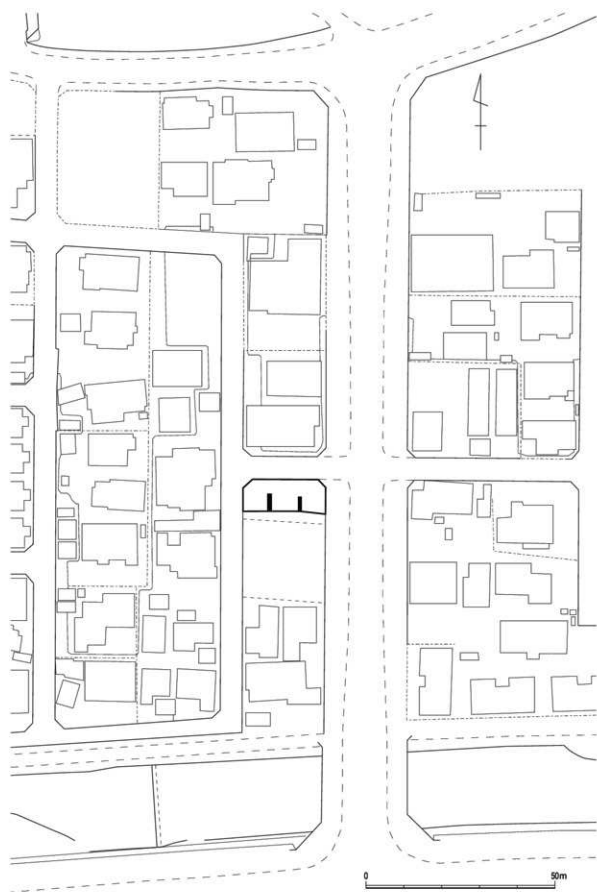


Fig.15 第252次調査地位位置図① (1/1,000)

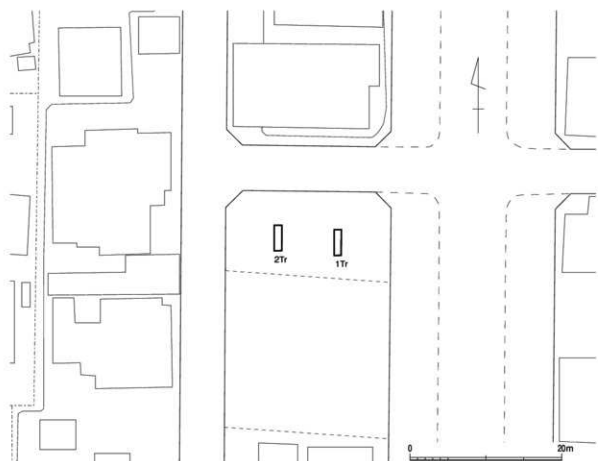


Fig.16 第252次調査地位位置図② (1/500)

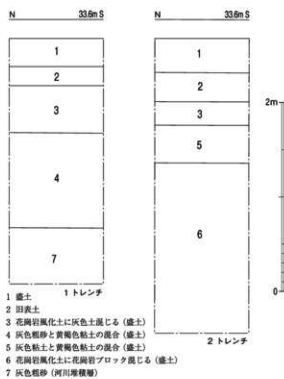


Fig.17 第252次調査土層略測図 (1/40)





## 1 筑前国分寺跡第30次調査（西面回廊の確認調査）

### （1）調査概況

**経 過** これまで史跡「筑前国分寺跡」の調査は、福岡県教育委員会による塔跡や金堂跡、東面回廊等の環境整備に伴う調査や、太宰府市教育委員会による外郭施設等の確認調査が進められてきている。

今回の確認調査は、西面回廊推定地における境内整備に伴い、当該地の遺構の状況及び地下遺構への影響を把握するために実施したものである。

調査は太宰府市教育委員会及び地権者と協議を重ね、令和5年2月21・22日に実施した。掘削は重機及び人力により行い、写真撮影や図面作成の後、直ちに埋戻し、調査を完了した。調査面積は6.9㎡である。

**位 置** 調査地は、塔跡の西約70m、西面回廊の推定地に位置する。地番は太宰府市国分3丁目612番8である。

### （2）トレンチ設定と基本層序（Fig.18～20, PL.6）

調査地は平坦で、トレンチを1箇所（1.2m×5.75m）設定した。

調査の結果、地表面から30cmまでは表土や現代の整地層が存在し、その下は多くの部分で攪乱が及んでいた。一部では地表面から40cm下の黄褐色土の地山直上で、瓦片を含む暗褐色土が薄く堆積していたが、遺構は確認できなかった。

### （3）出土遺物（Fig.21, PL.8）

平瓦（1・2）1は摩滅しているが、凸面に縄目タタキ、凹面に布目圧痕が認められる。側面はケズリ仕上げである。2は凸面に斜格子タタキ、凹面に布目圧痕が認められる。側面は破面と載面が残る。

### （4）小結

調査の結果、当該地は、回廊に関する遺構の存在が予想されたが、後世の削平や攪乱によって、残存していないことが明らかとなった。

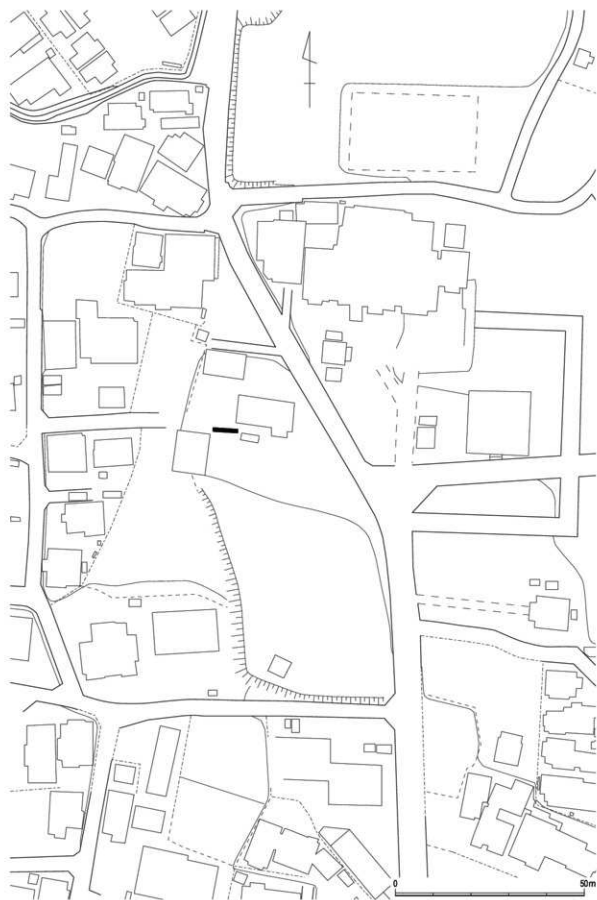
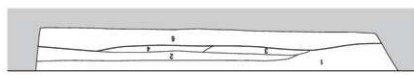


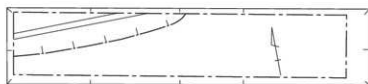
Fig.18 第30次調査地位位置図① (1/1,000)



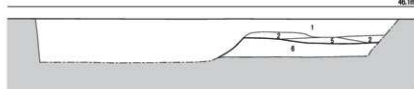
Fig.19 第30次調査地位位置図② (1/500)



可壁



46.1m



- 1 灰土及び雑瓦
- 2 現代の遺構
- 3 礎石
- 4 褐色粘土に小礫混じり
- 5 暗褐色粘土
- 6 黄褐色土に小礫混じり (地山)

Fig.20 第30次調査トレンチ略測図 (1/60)

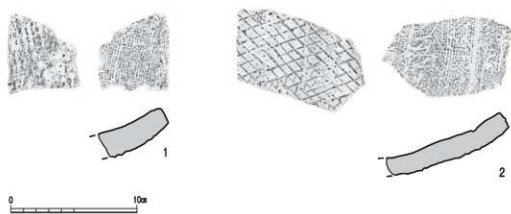


Fig.21 第30次調査出土遺物実測図（1/3）

## 1 大野城跡第 58 次調査（四王寺県民の森内の確認調査）

### （1）調査概況

**経過** これまで特別史跡「大野城跡」の調査は、環境整備や災害復旧に伴うものがほとんどであり、広大な面積の中で、関連する遺構の広がりや土地利用の変遷等については、情報の蓄積が進んでいない状況にある。

一方で、近年は登山客の増加に伴い、便益施設の設置や改良の要望が増えてきており、遺跡の状況を把握をすることが重要になってきている。

今回の確認調査は、四王寺県民の森内にある、ワンヘルスの森ミュージアムのバリアフリー化に伴う、エレベーターの設置が計画されたことを機に、当該場所での遺構の有無、時代や性格などを把握するために実施したものである。

調査は、宇美町教育委員会職員の立会のもと、令和 4 年 9 月 27 日に実施した。掘削は重機及び人力により行い、写真撮影や図面作成の後、直ちに埋戻し、調査を完了した。調査面積は 2.4㎡である。

**位置** 調査地は、猫坂礎石群の存在する丘陵の北側谷部に位置する。地番は糟屋郡宇美町四王寺 207 番である。

### （2）トレンチ設定と基本層序（Fig.22～24, PL.7）

調査地は、北流する沢の左岸に位置する。現在は平坦であるが、元々は沢に向かって傾斜していく地形であることが予想された。トレンチは地表のレンガやバラスを 2.5m 四方除去した後、1.2m × 2.0m の規模で設定した。

調査の結果、地表から 40cm までは、平坦面を造成した際の盛土、その下に旧表土が存在した。旧表土の下には、曝湿じりの黄灰褐色粗砂や灰色シルトからなる自然堆積土が存在し、地表から 160cm 下で黄褐色粘質土の地山を確認した。

遺構及び遺物は確認できなかった。

### （3）小結

調査の結果、当該地は、東側に位置する沢の上流部からの堆積作用が及ぶ箇所にあたり、後世に造成に伴う盛土が行われたことが明らかとなった。

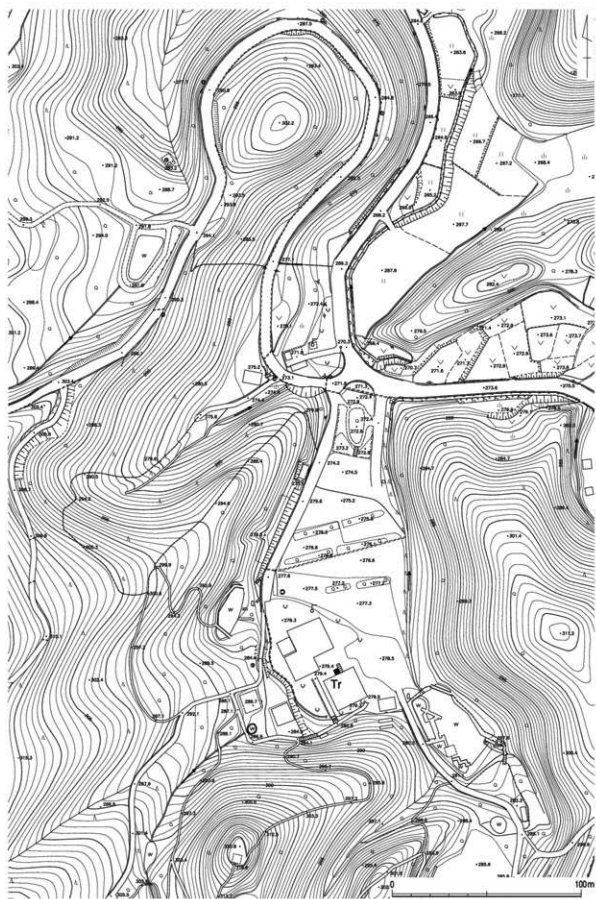


Fig.22 第58次調査地位置図① (1/2,000)

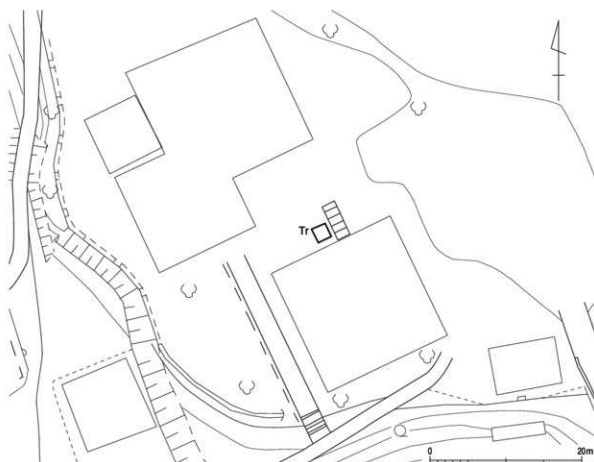
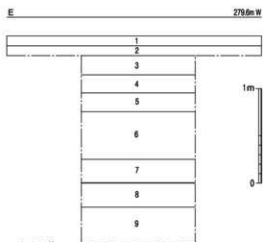


Fig.23 第58次調査地位置図② (1/500)



- 1 レンガ
- 2 ガラス
- 3 灰色土 (盛土)
- 4 黄褐色土 (盛土)
- 5 黄褐色粘質土 (田代土)
- 6 黄褐色粗砂
- 7 灰色シルト
- 8 黄褐色粘質土 (亀山)
- 9 黄褐色礫混じり土 (亀山)

Fig.24 第58次調査土層略測図 (1/40)



Tab.5 報告書掲載遺物一覧

【大宰府史跡第 251 次調査】

Fig	番号	遺構・層位等	注記 (S 番号・土層)	種類	器種	備考
14	1	第 6 層	粗砂層	土師器	小皿	
14	2	第 6 層	粗砂層	土師器	小皿	
14	3	第 6 層	粗砂層	土師器	皿	
14	4	第 6 層	粗砂層	須恵器	鉢	
14	5	第 6 層	粗砂層	瓦	丸瓦	
14	6	第 6 層	粗砂層	瓦	丸瓦	
14	7	第 6 層	粗砂層	瓦	平瓦	

【筑前国分寺跡第 30 次調査】

Fig	番号	遺構・層位等	注記 (S 番号・土層)	種類	器種	備考
21	1	地山面	地山面	瓦	平瓦	
21	2	地山検出時	地山検出時	瓦	平瓦	

# PLATES





(1) 第247次調査地全景  
(南東から)



(2) 第247次調査  
1トレンチ  
(東から)



(3) 第247次調査  
2トレンチ  
(西から)



(1) 第248次調査地全景  
(南西から)



(2) 第248次調査  
1トレンチ  
(南東から)



(3) 第248次調査  
2トレンチ  
(北から)



(1) 第249次調査状況  
(東から)



(2) 第249次調査  
トレンチ  
(西から)



(3) 第249次調査  
トレンチ  
(南西から)



(1) 第251次調査地全景  
(南から)



(2) 第251次調査  
トレンチ (西から)



(3) 第251次調査  
トレンチ (南から)



(1) 第252次調査風景  
(南東から)



(2) 第252次調査  
1トレンチ  
(南西から)



(3) 第252次調査  
2トレンチ  
(南西から)





(1) 筑前国分寺跡  
第30次調査地全景  
(南から)



(2) 筑前国分寺跡  
第30次調査トレンチ  
(南東から)



(3) 筑前国分寺跡  
第30次調査トレンチ南壁  
(北東から)



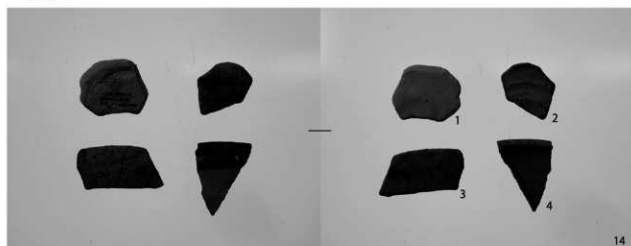
(1) 大野城跡第58次調査  
トレンチ(北西から)



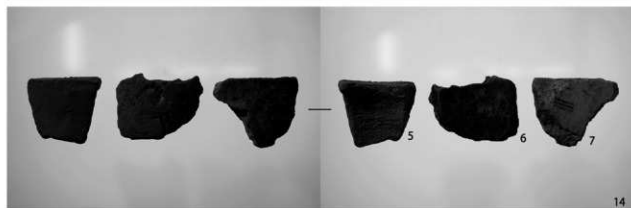
(2) 大野城跡第58次調査  
トレンチ北東壁(南西から)



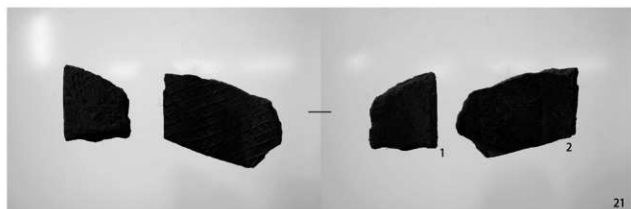
(3) 大野城跡第58次調査  
終了状況(北西から)



(1) 第 251 次調査出土遺物



(2) 筑前國分寺跡第 30 次調査出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな	だざいふしせきはっくつちょうさほうこくしよ							
書名	大宰府史跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次	Ⅻ 令和2～4年度							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	宮地聡一郎(編集)・吉田東明							
編集機関	九州歴史資料館							
所在地	〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3 ☎ 0942-75-9575							
発行年月日	令和6(2024)年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大宰府史跡 第247次調査	太宰府市観世音寺 1丁目333	40221	210316-247	33° 51' 20"	130° 51' 70"	20200421	6.8	住宅建設
大宰府史跡 第248次調査	太宰府市観世音寺 1丁目378・376	40221	210316-248	33° 51' 24"	130° 51' 59"	20200421	6.0	住宅建設
大宰府史跡 第249次調査	太宰府市観世音寺 6丁目715-87, 896-49	40221	210045-249	33° 52' 09"	130° 52' 28"	20200821	4.3	住宅建設
大宰府史跡 第251次調査	太宰府市観世音寺 1丁目308-2	40221	210316-251	33° 51' 22"	130° 51' 74"	20210924	3.2	住宅建設
大宰府史跡 第252次調査	太宰府市観世音寺 2丁目15	40221	210316-252	33° 51' 21"	130° 51' 49"	20230208	6.5	開発
筑前国分寺跡 第30次調査	太宰府市国分3丁目 612-8	40221	210044-30	33° 52' 03"	130° 50' 62"	20230221～ 20230222	6.9	境内整備
大野城跡 第58次調査	糟屋郡宇美町四王 寺207	40341	30117-58	33° 53' 38"	130° 51' 91"	20220927	2.4	エレベーター 設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大宰府史跡 第247次調査	官衙	古代	なし	なし				
大宰府史跡 第248次調査	官衙	古代	なし	なし				
大宰府史跡 第249次調査	寺院	古代	なし	なし				
大宰府史跡 第251次調査	官衙	古代～中世	なし	須恵器・土師器・瓦				
大宰府史跡 第252次調査	官衙	古代	なし	なし				
筑前国分寺跡 第30次調査	寺院	古代	なし	瓦				
大野城跡 第58次調査	山城	古代	なし	なし				
概要	<p>本書は令和2～4年度に九州歴史資料館が行った大宰府史跡、筑前国分寺跡、大野城跡の発掘調査の報告である。</p> <p>日吉/五反田地区の第247次調査、日吉地区の第248次調査、政庁前面広場地区の252次調査、観世音寺子院跡の第249次調査では遺構及び遺物は確認されなかったが、五反田地区の第251次調査では遺物包含層を確認した。</p> <p>そのほか、大野城跡第58次調査では遺構及び遺物は確認できなかった。また筑前国分寺跡第30次調査では、攪乱が多く遺構は確認できなかったもの、瓦が出土した。</p>							

既刊報告書一覧

『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅰ－平成12年度－』	2001年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅱ－平成13・14年度－』	2003年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅲ－平成15年度－』	2004年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅳ－平成16・17年度－』	2007年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅴ－平成18・19年度－』	2008年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅵ－平成20・21年度－』	2010年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅶ－平成22・23年度－』	2012年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅷ－平成24・25年度－』	2014年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅸ－平成26・27年度－』	2016年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅹ－平成28・29年度－』	2019年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅺ－平成30・31/令和元年度－』	2021年3月
『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅻ－令和2～4年度－』	2024年3月（本書）

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2120261
登録年度 5	登録番号 0003

大宰府史跡発掘調査報告書Ⅻ  
令和2～4年度

令和6（2024）年3月31日

発行 九州歴史資料館  
福岡県小郡市三沢5208-3  
印刷 株式会社 アカマ印刷  
福岡県福岡市中央区平尾5-20-3